

MR I 画像による早期アルツハイマー型認知症診断支援システム： VSRAD（ブイエスラド）検査を受けてみませんか

中央放射線部長 岩本 芳子

<年間1万人>

この数字は、認知症やその疑いがあり、徘徊などにより行方不明になって警察に届けられた人の人数です。数年間、行方不明だった方が、某番組で放送されたことがきっかけで身元が判明したという報道もありました。

現在、超高齢化社会が進む中でアルツハイマー型認知症が急増していますが、早期診断、早期治療をすることでアルツハイマー型認知症の進行を遅らせることができる可能性があります。

<VSRADブイエスラドとは？>

診断方法の中でもMR I 検査画像を用いた早期アルツハイマー型認知症の診断支援システム（Voxel-based Specific Regional analysis system for Alzheimer's Disease）は、頭文字をとってVSRAD（ブイエスラド）とよびます。アルツハイマー型認知症は脳内の海馬傍回（記憶に関わる部位）付近の萎縮がみられる特徴があります。萎縮の度合いを正常脳と比較して表示、解析することで数値化します。この数値が早期アルツハイマー型認知症を診断するための支援情報となります。しかし、この検査だけで確定診断できるわけではありません。当院では、CT、MR I、脳血流検査（RI）などの画像検査や長谷川式簡易知能評価スケールのような記憶・知能などに関する心理検査に加え、認知症のような症状を引き起こす体の病気でないことを確認する検査などを行い、総合的に診断します。

尚、VSRADのみであれば6分ほどで終わります。（但し、検査対象患者は50歳以上です。）

<物忘れ？認知症？・・・思い当たる方は>

物忘れと認知症は区別が付きにくいのですが、早期発見、早期治療のためには、日常生活において例えば、「夕食に何を食べたのか思い出せない」のではなく、「食べたこと自体を覚えていない」ことがあるなど、どんな小さな変化でも見逃さないことが大事です。気になるようであれば、脳外科・神経内科の専門外来やかかりつけの医師にご相談ください。

